

◆授業のポイント◆

- ・ 学習の見通しをもたせたり、振り返ったりする学習を取り入れることで学習意欲の向上を図る工夫
- ・ 言語活動の充実で基礎的・基本的知識・技能の定着を図る工夫

## 作業学習[洗濯]指導案

日時	平成22年6月4日(金)	1校時
学級	総合学級1・2組	(5名)
授業者	教諭 松本 恭知	教諭 塩満 綾子

### 1 単元 クリーニング屋を始めよう

#### 2 単元について

##### (1) 単元設定の理由

本校特別支援学級の2年生は、昨年、生活単元学習の「パン屋を始めよう」という単元で、パン屋の開店準備からパン作り、販売、会計までの学習活動を通して、働く意義や心得を考えると共に、調理の技能を高め、接客マナーを身に付けてきた。また、「家事を手伝おう」という単元では、家庭との連携を図り、学校で学習した様々な家事の基礎基本を家庭でも実施してもらった。このような学習の中で、2年男子Aは社交的な特性を生かし、パンの注文取りや配達で活躍したが、目と手の協応の発達に課題があり、着替えに時間がかかったり、アイロンをかけた後洗濯物をきれいにたたんだりすることが難しい。2年男子Bは、調理や買物、洗濯にも意欲的で技能も高いが、調理器具や着替えの後片付けを忘れることがある。2年女子Eは、話し言葉が2語程度で、そのほとんどが基本的な欲求を伝える言葉である。一方、比較的手先が器用で、給食着の洗濯とアイロンがけをほぼ毎週意欲的に行っている。

昨年の「パン屋を始めよう」の単元は、主に収入を得るための生産活動に重点を置いたもので、「家事を手伝おう」は主に消費活動に重点をおいて学習したものである。今回の「クリーニング屋を始めよう」は、収入を得るための生産活動に重点を置いたものであるが、これに合わせて、生活単元学習で「自分で料理を作ろう」という単元を設定し、関連を持たせている。そうすることで、生産と消費という将来の社会生活を疑似体験し、社会の仕組みを知り、働く意義を考え、社会的自立のための知識・技能を身に付けさせることができると考える。また、本校特別支援学級のこれまでの研究から、国語や数学のような各教科の学習を単独で実施するよりも、生活単元学習や作業学習のような体験的な学習と関連付けて学習するほうが効果的であることが分かっている。そこで、今年度は、国語や数学の指導計画も、「クリーニング屋を始めよう」という単元と「自分で料理を作ろう」という単元に関連付けて作成し、その効果を研究したい。

本単元では、最初にクリーニングに関する機械や器具の名称、用途及び使い方についてのオリエンテーションを実施し、基礎的・基本的知識を身に付けさせる。そして、それを元に実際の洗濯やアイロンの使い方を練習し、基礎的・基本的技能を身に付けさせる。このような練習を一定期間実施した後、本校の職員を対象にハンカチやワイシャツのクリーニングの注文を取り、クリーニングを実施した後、配達まで行う。これらの活動を通して、働く意義や心得を考え、洗濯の技能を高め、対応の仕方を身に付けさせたい。そして、この単元に関連させて、数学の時間には、「量と測定」、「数量関係」、「実務」の学習を平行して実施したい。また、国語の時間には、洗濯物の収集・配達・

作業中のコミュニケーションの学習や、注文表・領収書等の記入の仕方、洗濯の反省などを短文で書かせる学習を実施したい。このように、生活単元学習のような体験的な学習と、国語・数学のような各教科の学習とを関連付けることで、確かな学力をはぐくむことができると考える。

以上のような学習を通して、クリーニングの知識・技能を身に付けるだけでなく、働く意義や社会の仕組みを理解し、将来の社会生活に意欲的に取り組む基盤を築くことができると考える。

## (2) 生徒の実態

氏名	本単元に関する実態
A	社交的で、昨年の「パン屋を始めよう」の単元では、パンの注文取りを積極的に行った。目と手の協応の発達に課題があり、紐を結んだり、袖のボタンを留める等の微細運動が苦手である。家庭での家事の手伝いも食器洗い程度であり、洗濯やアイロンかけなどはあまり行っていない。
B	身辺処理はほぼ自立しており、日常生活で困ることはほとんど無い。手先も器用で、イラスト画や物作りが好きである。家庭では比較的家事の手伝いもしており、調理実習にも積極的に取り組む。給食着の洗濯やアイロンがけにも積極的である。注意・集中の継続に幾らか困難があり、学習活動の後片付けを忘れがちである。
C	コミュニケーション能力が高く、あらゆる活動に機敏に行動することができる。身辺処理もほぼ自立しており、日常生活で困ることはほとんど無い。簡単な家庭での手伝いもしている様子である。注意・集中の継続に幾らか困難があり、学習活動の後片付けを忘れがちである。
D	身辺処理スキル、学力の程度、共に小学校低学年程度であり、着替えなどの一つ一つの行動に時間がかかり、言葉掛けや一部支援を要する。明るく、社交的な面があり、礼儀正しく挨拶をすることができる。洗濯や掃除等、家庭での手伝いなどはほとんど行っていない様子である。
E	身辺処理は部分的に未自立な面があり、言葉掛けや一部支援を要する。話し言葉が2語文程度で、基本的な欲求を伝えるものがほとんどである。比較的手先は器用であり、手芸や給食着の洗濯、アイロンがけなどもできる。本単元の学習を通して、用具の名称を覚え、取り扱い方法を言葉で表現できるようになることが課題である。

## 3 単元の目標

- (1) クリーニングという作業活動を通して、勤労に対する興味、関心、意欲、態度及び習慣の形成を図る。
- (2) 洗濯物の注文集め、配達等を通して、場面や状況に応じた適切な対応ができる。
- (3) 洗濯機やアイロン等の電気器具、その他の用具の名称を覚え、取り扱いに慣れる。
- (4) 洗濯物の生地、洗剤の種類、量について理解を深め、適切に洗濯ができる。

#### 4 単元の指導計画

##### (1) 本単元の指導計画（全20時間）

次	時間	主 な 学 習 活 動	
1	4	○ オリエンテーション ・ 機械、器具等の名称、用途及び使い方の概要を調べる。 ・ 作業素材、材料、用品等の概要を調べる。 ・ 作業計画を立てる。 ・ 作業に係る規則を確認する。 ・ 基本的用語を調べる。	
2	2	○ 洗剤等の購入	・ 洗剤、ハンガー、手袋、整理かご等を購入する。
3	8(本時)	○ 洗濯の練習	・ 洗濯の各工程を相互に評価しながら練習する。
4	1	○ 洗濯物の収集	・ 校内で洗濯物を収集し、注文票の記入や対応の仕方を身に付ける。
5		○ 洗濯物の分類	・ 生地、素材、厚さ、染色等で分類し、ポケットを点検する。
6	1	○ 洗濯	・ 予洗い、本洗い、すすぎ、脱水をする。
7		○ 乾燥	・ ハンガーかけ、洗濯ばさみ留め、取り入れをする。
8	1	○ アイロンかけ	・ スチームアイロンの利用 ・ 仕上げ（正確にたたむ、袋詰め）
9	1	○ 配達	・ 注文票どおりに配達することを通して対応の仕方を身につける。
10	1	○ 機械、器具等の点検、整備	・ 洗濯機、アイロン等の手入れをする。
11	1	○ 反省	・ 作業分担を評価し、次回の作業計画を立てる。

##### (2) 各教科と各教科等を合わせた指導とを関連付けた指導計画

作業 学習	単元「クリーニング屋を始めよう」 ① オリエンテーション ② 用品の購入 ③ 洗濯の練習（本時） ④ 洗濯物の収集から配達 ⑤ 機械・器具の点検 ⑥ 作業の評価 ⑦ 次回の計画 ※ ④～⑦を週1回の割合で1年間通して実施する。
数 学	「量と測定」⇒ 洗剤の量や調理の計量 「図形・数量関係」⇒ クリーニングの売上のグラフ 「実務」⇒ 調理の買い物の計算、クリーニングの売上計算等
国 語	「聞く・話す」⇒ 洗濯物の収集・配達、作業中のコミュニケーション 「読む」⇒ 料理のレシピやインターネット上の洗濯の仕方の読み取り 「書く」⇒ 注文票・領収証等の記入、洗濯の反省や料理の感想等の短文の作成
生 活 単 元	単元「自分で料理を作ろう」 ① 献立の検討 ② レシピの取り出し ③ 調理の計画 ④ 調理 ※ 月に1回の割合で1年間通して実施する。

#### 5 本時の実際（9 / 20）

(1) 題 材 クリーニングの練習をしよう

(2) 目 標

- ① クリーニングに使用する用具の名称や用語を覚え、取扱いに慣れる。
- ② クリーニングの練習を通して勤労に対する態度及び習慣の形成を図る。

生 徒	個 人 目 標
2年男子A	きびきびした態度で作業に取り組むことができる。
2年男子B	クリーニングに使用する用具の取扱いに慣れ、後片付けができる。

1年男子C	クリーニングに使用する用具の取扱いに慣れ、後片付けができる。
1年男子D	クリーニングの補助を通してクリーニングの概要を理解する。
2年女子E	クリーニングに使用する用具の名称や使い方を言葉で表現できる。

(3) 授業設計の工夫

- ① 学習の見通しを持たせたり、振り返ったりする学習を取り入れることで学習意欲の向上を図る工夫
- ② 言語活動の充実で基礎的・基本的知識・技能の定着を図る工夫

(4) 展開

過程	時	主な学習活動	場所	留意点 ※基礎・基本を定着・活用させる工夫	資料			
教 え る	5	1 本時の目標と授業の流れを確認する。 クリーニングの練習をしよう	1組	○ 学習の見通しを立てることで学習意欲の向上を図る。 ※ 見通しをもたせて学習意欲の向上	・ 電子黒板			
	5	2 洗濯の仕方、アイロンのかけ方、洗濯物のたたみ方の基礎基本を確認する。	1組	○ 基礎・基本技能シートを見て確認することで基礎・基本の定着を図る。 ※ 教師が教えて基礎・基本の定着	・ 電子黒板 ・ 基礎・基本技能シート			
	5	3 使用する機械、器具の取扱上の注意について確認する。	1組	○ 取扱上の注意については、教師が教えることで安全についての理解を徹底し、習慣付ける。	・ 取扱方法 チェックシート			
考 え さ せ る	5	4 作業着に着替える。	1組	○ 素早く正確に着替えることを通して勤労に対する態度及び習慣の形成を図る。	・ エプロン ・ 手袋			
	5	5 作業班ごとに作業手順を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>&lt;洗濯&gt;</p> <p>① 予洗いをする</p> <p>② 本洗いをする</p> <p>③ 片付ける</p> <p>④ 洗濯物をたたむ</p> <p>&lt;1組教室&gt;</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>&lt;運搬・物干し&gt;</p> <p>① 洗濯物を干す</p> <p>② 洗濯物を運ぶ</p> <p>③ 片付ける</p> <p>&lt;1・2組教室&gt;</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <p>&lt;アイロン&gt;</p> <p>① 温度調節をする</p> <p>② アイロンをかける</p> <p>③ 片付ける</p> <p>④ 洗濯物を袋に詰める</p> <p>&lt;2組教室&gt;</p> </td> </tr> </table> </div>	<p>&lt;洗濯&gt;</p> <p>① 予洗いをする</p> <p>② 本洗いをする</p> <p>③ 片付ける</p> <p>④ 洗濯物をたたむ</p> <p>&lt;1組教室&gt;</p>	<p>&lt;運搬・物干し&gt;</p> <p>① 洗濯物を干す</p> <p>② 洗濯物を運ぶ</p> <p>③ 片付ける</p> <p>&lt;1・2組教室&gt;</p>	<p>&lt;アイロン&gt;</p> <p>① 温度調節をする</p> <p>② アイロンをかける</p> <p>③ 片付ける</p> <p>④ 洗濯物を袋に詰める</p> <p>&lt;2組教室&gt;</p>	1組	○ 個別に復唱することで、確実に作業内容を把握できるようにする。	・ 作業手順・ 用具カード ・ 洗濯桶 ・ 洗濯板 ・ 洗剤 ・ ブラシ ・ 洗濯機 ・ 物干し ・ ハンガー ・ 洗濯ばさみ ・ アイロン ・ アイロン台
	<p>&lt;洗濯&gt;</p> <p>① 予洗いをする</p> <p>② 本洗いをする</p> <p>③ 片付ける</p> <p>④ 洗濯物をたたむ</p> <p>&lt;1組教室&gt;</p>	<p>&lt;運搬・物干し&gt;</p> <p>① 洗濯物を干す</p> <p>② 洗濯物を運ぶ</p> <p>③ 片付ける</p> <p>&lt;1・2組教室&gt;</p>	<p>&lt;アイロン&gt;</p> <p>① 温度調節をする</p> <p>② アイロンをかける</p> <p>③ 片付ける</p> <p>④ 洗濯物を袋に詰める</p> <p>&lt;2組教室&gt;</p>					
	5	6 作業班ごとに用具を準備する。 ・ 洗濯班・・・1組 ・ アイロン班・・・2組	1組 2組	○ 1つ1つの用具を呼称しながら準備することで用具の名前を確実に覚える。	・ 作業評価 カード			
15	7 各作業に取り掛かる。 ・ 洗濯班とアイロン班は二人一組で活動する。	1組 2組	○ 一人の生徒が作業の様子を評価することで、より確実に作業できるようにする。	・ 電子黒板				
振 返 り	5	8 本時の授業の流れを振り返る。	1組	○ 振り返ることで、今後の作業をより確実に行えるようにする。 ※ 振り返らせて基礎基本の定着	・ 電子黒板			

(5) 評価

- ① クリーニングに使用する用具の名称や用語を覚え、取扱いに慣れることができたか。
- ② クリーニングの練習を通して勤労に対する態度及び習慣の形成を図ることができたか。